

令和3年度 連携研究スキームによる研究（政策研連携研究課題）
研究成果等概要報告書

研究テーマ名	超高齢社会における社会・健康問題の解決に資する学際的研究
政策研連携研究課題名	食料消費と食生活・健康に関する実証的研究
研究実施期間（西暦）	2020年度～2022年度（3年間）
P0	高橋 克也

1 研究の進捗状況等

新型コロナウイルス感染症等の影響により食料品へのアクセス条件が大きく変化していると考えられるが、地域や集団等でのアクセス条件とともに食料消費と食生活・健康との関連を定量的に把握する。本年度は、継続的な調査地域における住民調査を実施するためのヒアリングや予備調査を重点的に行った。

今年度は、2022年後半に公表予定の2020年国勢調査メッシュ統計の他、2020年アクセスマップ作成に向けた関連データ入手を行うとともに打ち合わせを実施した。

また、連携研究スキーム（テーマ1・食料安保）のデータ援用による、店舗業態・距離と食品摂取（購入）多様性の関連について検討した。その結果、2020年の緊急事態宣言を機に、居住地周辺でのコンビニ利用は高まっていることが確認された。

同時に、利用した飲食店・小売業態までの移動距離を計測すると、コンビニ、飲食店では緊急事態宣言以降に移動距離の縮小がみられ、スーパーにおいて期間を通じて移動距離の大きな変化は確認されず、食料品の購入は居住地周辺に限定されていることが分かる。

なお、購買履歴については、今後、個人属性とともに食品多様性、購入範囲、チャネル・業態、決済手段等についても詳細な分析を行う予定。